

JNEF で初めて壇上に立つあなたのためのチェックリスト 2015

まず、なにを伝えたいのか、ワンフレーズの英語で言うてみてください。ワンフレーズで明確に言えない演者の方は、プレゼンの内容が熟していない、準備不足です。

プレゼンテーションとは、とは何か？東京オリンピックの誘致のためのプレゼンを思い出してください。それは、

- 1) written English をしゃべることはありません。しゃべるためには、原稿を捨てて、新たな”presentation tuning”が必要です。「ゆっくり」「はっきり」、です。
- 2) 「伝えたいという情熱」(=with enthusiasm and emotion) がこもっていなければ、相手の胸には届きません。どんなに発音が正しくても、パソコンがしゃべるような monotone は、まったく、いただけません。

学会でのプレゼンテーションは、スライドショーを機械的にめくって流すことではありません。それは以下の3つのコンポーネントから成り立っています。

- ① Opening: tell them what I am going to say
- ② Body: say it!
- ③ Conclusion: tell them what I said

従って、結論を（時間がないからと言って）略すことは、プレゼンを中断したと同罪、禁忌です。

さて、第一声を発する前の心構えです。

- ☐ まず、マイクを自分の高さにあわせてください
- ☐ タイトルのスライドからポインターは使いましょう（マウス使用可）
- ☐ マイクは必ず、非利き手に持って、話す。利き手でマウスを使う。
- ☐ 原稿の朗読は決してやってはいけません。暗記して聴衆に向かって語りかけてください。スクリーンを決して見てはならない。
- ☐ パソコンの画面を見ながら話をし、ポインターの代わりにマウスを画面で使えば、聴衆に背を向けないですみます。

タイトルスライドは、

- ☐ タイトル、著者名、施設名（順：デパートメント、施設、場所 or 地名）
- ☐ 著者名はフルネームを記す
- ☐ 施設名の後に地名を入れることを推奨

例：○○○ University, Kobe Japan

症例提示についてよくあるミスをいくつか挙げます。

- ☐ 個人情報に注意：患者のイニシャル表示、ID#表示は禁忌。また、画像データ中の患者名やIDなどは必ず削除しておく
- ☐ 施設の略称は禁忌：×Dpt.→○Department、×Uni.→○University
- ☐ 症例報告で、いきなり症例の提示から始めるのは、礼儀知らず、です。まず、その症例を報告する目的を述べてください。原著論文の序文と同様に、何のために、何を明らかにするために、その症例を報告するのかという理由を説明してください。あなたが珍しい症例を経験したと思ったとしても、「珍しいから」というだけでは、なんら他の人に聞かせる理由にはなりません。
- ☐ 使い慣れている略語でもできるだけフルにしゃべることがマナーです。
 - × SAH → ○ subarachnoid hemorrhage
 - × ICA → ○ internal carotid artery
- ☐ 数字と単位の間スペースに注意：×700mm→○700[]mm、 ×20Gy→○20[]Gy
- ☐ ただし、%はスペース不要：×98.5[%]→○98.5%

- そのほか、スペースが必要（例：1.05 ± 0.12）、スペースが不要（例：mm²/sec）
- × Patient was diagnosed → ○ (a disease) was diagnosed
- × male, female は使わない → ○ boy, girl, man, woman
- boy or man? 18 歳は医学的にはオトナ
× 18-year-old-boy → ○ 18-year-old man
- 性別：gender は社会的な性別、sex は個人の性別
- × intra-operative → ○ intraoperative
- × plain CT → ○ pre- / post- enhancement

結果や討論については、

- ビジーなスライドを出して Sorry for busy side というのなら、事前にビジーではないスライドを用意しておくべき
- 出版された図表のそのままのコピーの使用は避ける。スライドにふさわしい図を新たに作り直すことを推奨。
- 3D の棒グラフは避ける。3D にする意味がない。
- 引用文献を我流で略さない。（× JNS → ○ J Neurosurg）
- Discussion の最後に、その研究の価値判断(将来どんな事に役立つかなど)を必ず述べる。

スライドデザイン・フォント一般について、

- “lucky sevens”の原則については熟知してください。
(注)“lucky sevens”の原則：1 枚のスライドの行数は 7 行まで、1 行の英語の語数は 7 語まで
- スライド背景に模様・デザインありは読みにくくなるだけ良くない。
- スライド背景：黒・暗い色は避ける（部屋が暗くなって audience が手元を見れなくなる）、白あるいは明るい色を推奨)
- 文字配列：右揃えは避ける、センタリングは見にくい、左揃えが基本
- アンダーライン、イタリックは読みにくいので多用は避ける。
- 英語標記に日本語フォントを流用しない、英語フォントを使用する。
- フォントに飾りが多いのは professional ではない印象を持たれる。
× *AaBbCc* × **AaBbCc**
- セリフフォントはダメ、サンセリフフォントを推奨
セリフフォント サンセリフフォント
× **AaBbCc** ○ **AaBbCc**

最後に、上手なプレゼンテーションを目指すのならば、どの一冊でも良いですから以下に挙げる参考図書を手にしてみてください。一読でテキメンの効果有り、です。

『医学・生物学者のためのうまい研究発表のコツ』（植村研一, 2005）

『シンプルプレゼン』（ガー・レイノルズ, 2011）

『もうプレゼンで困らない！-和英で引ける医学英語フレーズ辞典』（伊達勲, 2013）

『TED 驚異のプレゼン』（カーマイン・ガロ, 2014）

『あなたのプレゼン誰も聞いてませんよ！』（渡部欣忍, 2014）

(JNEF2015 会長 近藤 威 2015.07.03 記)